

笑顔輝く楽しいまち 美しい街 素敵な自治会のある町づくり 第40回定期総会で確認し合う。

去る6月9日(土)、平成24年度の総会が和やかなうちに終了しました。

当日はグリーンホール(小ホール)に各地域から自治会長、役員の皆様が参加され、14時より総会の議事に入りました。

議長に鈴木副会長が選任され、まず初めに自治連協を代表して大久保正二会長より挨拶があり、①昨年の3・11東日本大震災への義援募金に対する自治会の皆様のご協力に感謝とお礼 ②自治会の目的「ふれあい」「助けあい」「話しあい」の心を地域の皆さんがつくること。

この目的を果たすために、自治連協は活動を強力に推進していきたいとの挨拶がありました。

総会は、23年度活動報告・決算報告の承認に続いて、24年度活動方針・予算案が承認され終了しました。

当日は第二部として懇親会が開催

され、多くの来賓の方々を代表され長友調布市長、伊藤市議会議長、遠藤・尾崎都議の挨拶の後、林常任相談役の乾杯により、良い雰囲気の中で地域自治会の役員さん、自治連協役員、来賓の方々との交流が楽しく行われました。

(具体的活動計画は二面)



あいさつする大久保正二会長

所感

~「自治連協」と「参加自治会」の
強くて暖かい絆を作りたい!~



総会出席者のみなさん

調布市の中の自治会が集まって作っている「自治連協」は、発足より40年の歳月が経過している。この長い時間の経過にもかかわらず参加自治会との関係は、しっかりと結びついているとは、残念ながら断言でき得ないのです。

私たちは、参加自治会に少しでもその運営にお役立て頂けている!と確信を深めたのです。

その為にイベントを企画して、自治会と協力・協働を重ねて参りましたが、その効果が見えない?原因はどこにあるのか?を役員会で長い間議論を重ね、得た結論は、もう一度原点に返って、参加自治会との関係を深めるために「百九十」余の全自治会に綿密な調査票を整備・完成し、この「調査票」に視座して様々な問題・課題視点を定め、自治会の為に積極的に活動を進めて参る所存であります。

調布市自治会連合協議会 会長 大久保正二

退任をされた役員に感謝状を贈呈

第40回定期総会を期に退任された額賀順(元副会長)さん、恩田章司(元常任相談役)さん、山口佑治郎(元理事)さんの三氏が表彰されました。

額賀さんは、平成13年4月に監事に就任、平成16年4月に副会長に就任され、川原名誉会長を補佐され、大久保会長の片腕として活動され、自治連協の発展に11年間の長い間尽力されました。大変ご苦勞様でした。

恩田さんは平成10年4月理事に就任。平成16年4月に常任相談役



元理事 山口佑治郎さん



元常任相談役 恩田章司さん

に就任され、理事・役員会にて大変貴重なご意見をいただき、自治連協の運営にご協力賜わり感謝申し上げます。

山口さんは、平成14年理事に就任され、安全委員会の副委員長となられ、自治連協主催の地域限定防災訓練の企画・実施に積極的に取り組まれ、自治会の防災会の組織に努力されました。

御三方の自治連協へのご協力に心よりお礼を申し上げます。

委員会活動方針

■総務委員会

副会長・委員長 有原 成夫

昨年末には、各自治会の現状についてのアンケートに報告をいただきました。集計結果については、別紙特集号にて報告しますが、今年の第1の課題で、集計分析を中心に対策を推進する。

そして、第2にマンション管理組合との交流拡大活動の推進があります。市内マンション・アパートの現状把握から取り組み、昨年末には概要が判明したので、新たにアンケート・電話などを活用して各管理組合と接触を進め、情報収集に努めたい。

市内約十二万世帯のうち、自治会加入世帯は約60%に満たない状況にあり、さらに自治連協への加盟率が30%程度でしかない現状から、マンション居住者の近隣コミュニケーションとの親睦対策を推進したい。

自治連協活動のPRが不十分であり、心して課題を消化していきたい。

第3は、ホームページです。自治連協にホームページがない。情報の提供と町の情報吸収をスピーディーに交受信出来る場であるとして期待している。技術的な面、予算面での未解決課題でもある。(事務局長兼務)

■企画委員会

副会長・委員長 矢田部 正照

平成24年度は、継続する事業と新規事業合わせ、次の4項目について事業を実施いたします。

一・地域自治会との懇親会の開催
9月以降、当協議会加盟自治会との懇親会を4、5地区において開催し、各自治会の抱える諸問題や未加入自治会の当協議会への加入促進、さらに当協議会との連携について協議する。

二・視察・研修の実施
特色ある自治会活動を実施している隣接市を訪問し、交流会等を通じて、事業推進の一助とする。

また、東日本大震災による被災地等の視察研修を行い、改めて防災に関する啓発を喚起する。
三・アンケート調査結果の分析

分析結果による今後の対抗策等の取り組みと、個別自治会台帳の完成を目指す。
 四・会員の拡大
 以上が、本年度の企画委員会の活動計画であります。

安全事業委員会

委員長 伊藤 陽介

地域限定型総合防災訓練

地域内の自治会の積極的な協力が基本となるため、その下相談を行ったところ、了解が得られ、本年度は11月25日(日)午前中市立多摩川小学校で実施する事になりました。地域の方、ご参加をお願いします。

安全に関するその他の事業

市民の防災や安全に役立つ具体的な情報を提供したいと考えます。そのため関係機関や自治会その他の団体との連携を強め、取材等を積極的に行います。

味スタまつり(実施済)

味の素スタジアムが市民に感謝するため施設を無料で提供するため、本年は6月4日でした。自治連協は自治会や自治連協をPRする目的で出店、好評でした。

■飛行場まつり(10月21日開催予定)

伊豆七島への空の玄関口である調布飛行場が、近隣市民への感謝とPRのために行うもので、自治連協は味スタまつりと同趣旨で同じ内容の出店を予定しています。



味の素スタジアム感謝デー参加

福祉委員会

委員長 清水 正巳

少子高齢化

昨今雀を見かけなくなりました。国内の雀は20年で半減したものとされる。一人っ子が増え、雛の数も商業地で平均1.4羽、住宅地で1.8羽、農村部でも2羽。従来は4〜5羽が普通の鳥だから、少子化である。

少子高齢化が続く限り税収は伸び悩み社会保険費は増え続ける。

子供の貧困率は先進国ワースト10入り、子育て支援はさっぱり進まず、もの造りの世界ではデジタル化が進む中で福祉の世界でも新しい福祉システムの構築が必要だ。

孤独化傾向

日本の総人口は五年前からほぼ横ばいだが、世帯数は約5%増えた。1世帯あたりの平均人数が2.5人を下回った都市部を中心に、単身者が増えて家族の機能が縮小し、社会的に孤立する人が増え「孤立化」の傾向が表れた。だれにも気づかれずに亡くなり、何週間もたってから見つかる「孤立死」が相次ぐ中、自治体を中心となって地域福祉の担い手が連携し、支援ネットワークを充実させ孤立死を防ぐ仕組み作りが必要だ。



防災訓練の様子

賛助会員

敬称略

- 調布市社会福祉協議会
- 東京都共同募金会調布地区協力会
- 調布交通安全協会
- 調布地区防犯協会
- 調布災害防止協会
- 高津装飾美術(株)
- 深大寺 林 建設(株)
- 共進倉庫(株) 齊藤倉庫(株)
- 永易運輸(株) 研精会 山田病院
- 橋本石材(株) ウィード
- 昭和信用金庫 多摩川支店
- (有)薩南温調 シマダハウス(株)
- 京王建設(株) 京王バス東(株)
- (株)レストラン京王
- 緑ヶ丘一丁目自治会
- 緑ヶ丘二丁目自治会
- 緑ヶ丘西部自治会
- 緑ヶ丘自治会
- 仙川緑ヶ丘若葉町親和会自治会
- 深大寺元町一丁目自治会
- 林 貞夫 増岡 源吾
- 矢田部新一 川手 一郎
- 恩田 章司 元木 輝昌
- 藤橋 道夫 川原 主計
- 大久保正二

いつもご協力を頂き
 役員一同心から

感謝いたしております。

あの街この町

こんにちは

「ご近所支えあい隊」です



隊長 馬部 久夫

私たちは深大寺東町で暮らしているボランティア仲間です。深大寺東町5丁目〜8丁目にお住まいのお年寄りや身体が不自由で困っている人達に、ちょっとしたお手伝いが出来たらと集まりました。

たとえば、「電球の付け替え・簡単な家具の移動など、急がないけど困っている。」「自分ひとりではチヨットできない。」というような人達が、この町で安心して暮らして行けるようにと、平成19年4月「ご近所支えあい隊」として発足いたしました。

あれから5年、この活動に賛同されたボランティア隊員は、自治会・老人会・民生児童委員の人達等で、現在39名。活動の拠点は、この地域のボランティアが集う梅の湯商店街

内の「野ヶ谷の郷」。毎週土曜日午前10時〜12時の間、お困りごとの相談に応じています。そして、相談内容や作業する日を確認した後、隊員が2人1組で出動します。ちなみに、この区域（深大寺東町5丁目〜8丁目）の人口は、約6200人、人口の約22%が65才以上で、75才以上も約10%と、調布市の平均よりも比較的高齢化率が高い地域です。

○これまでの活動内容は

電球・蛍光灯の取り替え・簡単な家具の移動 が最も多く、

○季節特有の依頼として

すだれ掛け・庭木の消毒・網戸の調整・火災報知器の設置・雪かき・換気扇の修理

○その他

話相手・門扉の修理・買い物の送迎・粗大ごみ出し・ベッドの取り壊し・トイレの水漏れ・カーテンの取り外し・ズボンの裾上げ・パソコンの相談 等々の、お困りごとの相談に対応してきました。

○利用できる人は

緊急性・継続性・専門性がなく、30分程度で出来る活動で、利用料は無料ですが、必要経費は自己負担です。

利用された人の多くは、高齢の女性で、身寄りが近くにいない人や、腰痛やひざ痛を抱えていて重たい物

を持ったたり、高い所が苦手の人達でした。そして、介護保険で利用できるサービスでは対応していない、チヨットした困りごとでした。

○その他の活動としては

活動資金を確保するために、地域の人達から提供して頂いた物品でのバザーの開催。毎年5月30日には「ごみゼロの日」と名うって、ご近所の清掃活動も行いながら「ご近所支えあい隊」のPRにも努めています。

○また、今年の総会では首都直下型地震の危険性がマスコミで報道されるなか、災害時に備えて、調布市の出前講座「災害時要援護者支援」を受講し災害時に一人で避難が難しい人に対して地域の支え合いのあり方等を勉強しました。

○終わりに

皆さんで苦労しながら立ち上げてきた「ご近所支えあい隊」。これから、お年寄りや身体が不自由で困っている人達が、住み慣れたこの地域で、安心して暮らし続けられるように隊員一同、ボランティア活動を推進して参ります。



お知らせ!

消火器を地域に設置しよう!!

自分のまちは、自分たちで安全確保することが大切です。調布市は、自治会からの申請により、地域に消火器を設置してくれることが条例で決めています。

具体的な申請内容は「調布市総務部総合防災安全課」にお聞きください。無料にて設置をしていただけです。自治会活動の強化のために取り組んでみてはいかがでしょうか?!

編集後記

去る6月9日に第40回定期総会が行われ、役員・理事の変更がありました。広報紙の担当も変わり、各委員会より1名を選出して編集委員会を構成し、取り組んで来ました。

まだ不慣れであり、十分な紙面とはなりませんでしたが。

今後は、より努力して、自治連協の役割を自治会の皆様に十分に伝達できる紙面をつくりたいと思います。よろしくご協力をお願いします。

編集委員会代表 原均

特集号

「アンケートの調査報告」

昨年11月より、皆様のご協力を得て行いましたアンケートはさまざまな角度から、自治会の実態を示唆していただいたと思っております。

以下に特徴的な項目をグラフ化してみました。

特に「近隣自治会との交流」や「防災訓練の実施」等、今おそらく一番必要な項目の数値が低いが目立っております。これにはいろいろな条件があると思いますが、自治会連合協議会としては、これらの問題の解析も進めていくつもりです。

また、自治会連合協議会への満足度に関しては「満足」と回答された方が15件となっております。

全体の回答122件を考えると、約13%という数字であることは、重く受け止めるべきと考えており、以後の活動の糧とさせていただきます。

いろいろなご意見やご希望をいただいたものを最終的にまとめ、当面今年のテーマのひとつとして、今一番皆様の関心があり且つ、緊急の課題である防災・備災の問題を取り上げ、これらに關し自治連協としての役割は何か、またそれに具体的に何ができるかを検討することを考えております。

これは行政をはじめ各自治会の皆様と協力して進めていく所存でございます。

これからもご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。ご協力ありがとうございました。

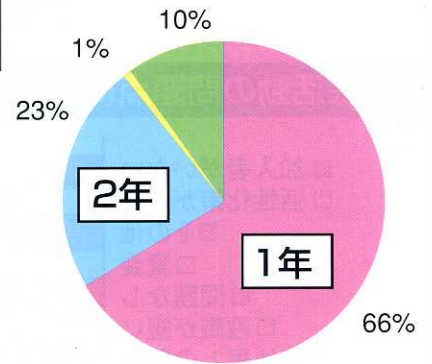
回答状況

187通発送中 回答122通 (回答率65.2%)

Aグループ (50以下)	53/85	62.4%
Bグループ (51~100)	23/32	71.9%
Cグループ (101~500)	36/52	69.2%
Dグループ (501~1000)	9/14	64.3%
Eグループ (1001以上)	1/4	25.0%

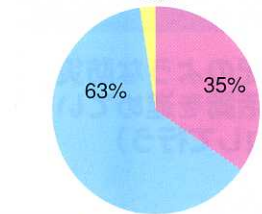
主な回答の層別 会長の任期

1年	81
2年	28
3年以上	1
無回答	12



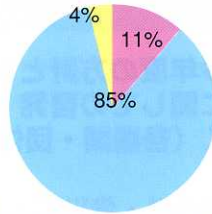
近隣自治会との交流

有	42
無	76
無回答	3



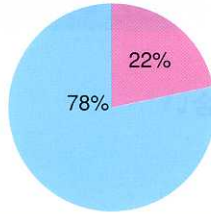
上記Aグループ

有	6
無	45
無回答	2



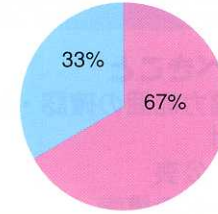
上記Bグループ

有	5
無	18



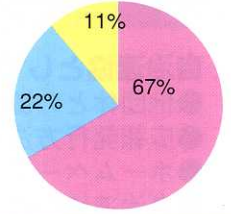
上記Cグループ

有	24
無	12



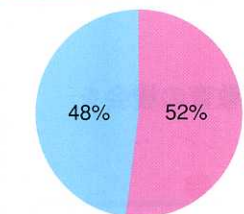
上記Dグループ (Eは除く)

有	6
無	2
無回答	1



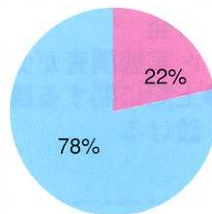
防災活動訓練

有	62
無	57



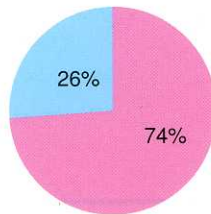
上記Aグループ

有	11
無	40



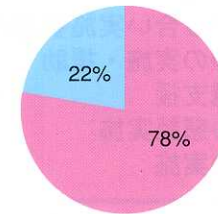
上記Bグループ

有	17
無	6



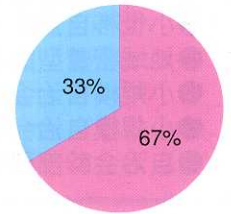
上記Cグループ

有	28
無	8



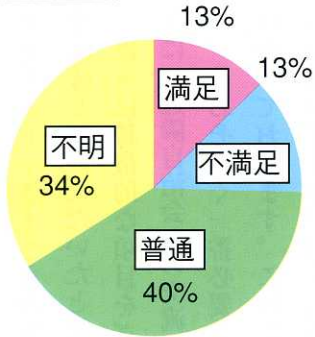
上記Dグループ (Eは除く)

有	6
無	3



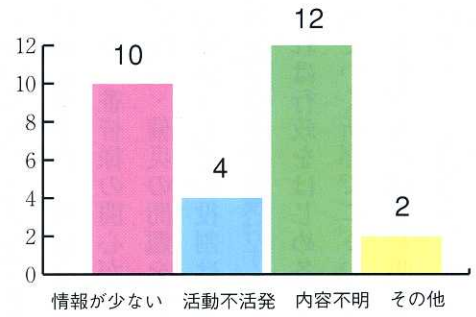
自治連協に対する満足度

満足	15
不満足	15
普通	48
不明	40



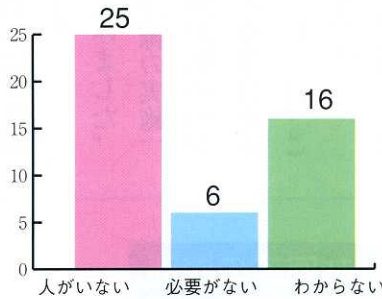
不満足な項目

情報が少ない	10
活動不活発	4
内容不明	12
その他	2



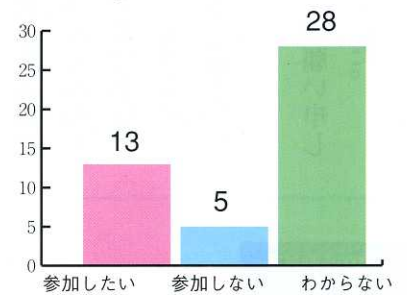
防災訓練なしの理由

人がいない	25
必要がない	6
わからない	16



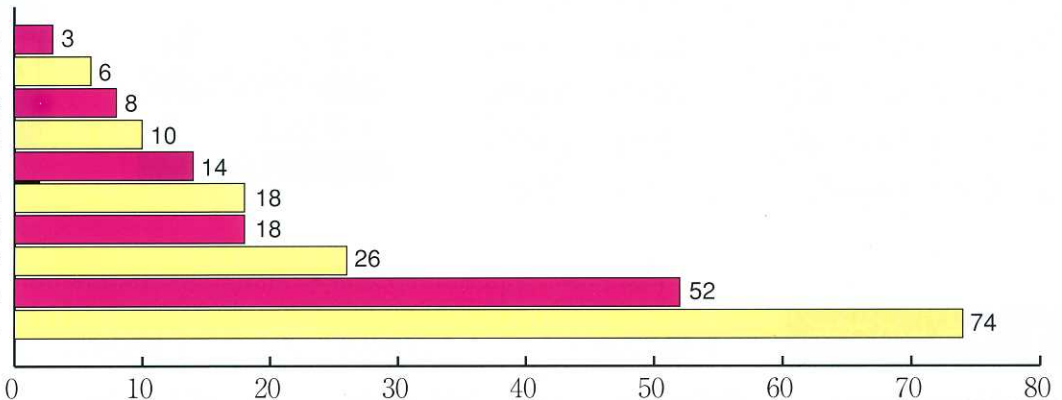
自治連協主催の防災訓練に

参加したい	13
参加しない	5
わからない	28



自治会活動の問題点に関する意見

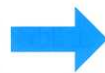
- 加入者がいない
- 活性化策がない
- その他
- 資金
- 問題なし
- 役職が短い
- 新旧住民との関係
- 特定の人だけ
- やる人がいない
- 高齢化、若者少なし



今年度の方策

自治連協としてやるべきこと

- 他団体との協力→協力範囲の確認・話し合い
- 広報発行方法の検討
- ホームページの開発公表
- 自治連協の主体的活動の模索
- 他府県の自治会連合組織の見学と意見交換
- 自治会活動の意義を持たせるため自治会役員との話し合いまたは講演会・勉強会
- 行政の協力による自治連協の地位向上
- 新規自治会発足の支援
- 小世帯自治会との話し合い実施要望の確認
- 地域密着型防災訓練の実施・援助
- 小規模自治会の連携支援
- 小規模自治会長との懇談実施
- 自治会幹部研修会の実施



今年度の方針として下記のような防災に関する啓発・教育活動を進めていく (各機関・団体と協力して行う)

- 防災・備災の心構えの徹底
 - ・ 普段から何を備えておくべきか
- 被災時の行動に関すること
 - ・ 何をするか、どこに逃げるか、意外と知らない人が多い
- 防災組織に属していない地域に対する啓発
 - ・ 実態調査が必要
- 上記に関する講演会・教育の機会を設ける